

第2回日本大学幹細胞研究フォーラム

再生医療は様々な疾患や外傷により大きく損傷された組織を修復し、その機能を回復させる画期的な医療としてその早期実現が強く期待されています。再生医療用の細胞としては高い増殖活性と多能性を有する幹細胞が注目されており、これにはES細胞を代表とする胚性幹細胞、生体組織中に微量に存在する体性幹細胞、そして人工的に体細胞から作製されるiPS細胞などが含まれます。

今回計画しているシンポジウムは、幹細胞を共通の研究対象として、その多様性や未分化性維持機構、体細胞を多能性細胞に形質転換させる技術開発やメカニズムの解明、さらに幹細胞を用いた再生医療の基盤を確立するためのトランスレーショナルリサーチに関する情報交換を、学部を超えて広く行うことを趣旨としています。

本シンポジウムは、1日の日程の中で午前の部と午後の部に分け主要研究者による講演セッションと、若手研究者を主な対象とするポスターセッションを設定します。ポスターセッションは、朝のシンポジウム開始時より終了時までポスターを掲示し、いつでも閲覧が可能です。また、国内から幹細胞研究に関するゲストスピーカーを招き、最新の知見をレクチャーしてもらいます。

これにより、幹細胞に関する幅広い知識の習得と、各学部の幹細胞研究者の連携が深まることが期待されます。